

研究データ利活用協議会(仮)

武田英明

RDA雑感

- 欧米と日本のギャップを考える

欧米における状況

- 研究データ活用(研究データ公開、シェアリング、データ論文等)はすでに研究活動に組み込まれている
- なぜ？
 - 助成機関が推奨あるいは義務化している
 - 各分野における研究活動のよい手段として認知
- すべきことは
手段としての研究データ活用を
 - 確実化
 - 促進
 - 成果の利用すること

日本における状況と対策

- 研究データ活用(研究データ公開、シェアリング、データ論文等)はまだ研究活動の一部としてほとんど認知されていない
- なぜ？
 - 助成機関が推奨あるいは義務化していない？
 - 各分野における研究活動のよい手段として認知されていない？
- すべきことは
手段としての研究データ活用を
 - その意義の広報(仲間作り、味方作り)
 - 日本の状況にあった対応を進めること
 - 例) 機関リポジトリ/JAIRO、J-Stage、CiNii、学認

研究データ利活用協議会(仮)

- 経緯: Japan Link CenterによるデータDOI実験プロジェクト(2014-15)
 - 初めて実務レベルの分野を横断した研究データの担い手が集まった会議
 - cf. 学術会議
 - 参加者:
 - 学術コミュニケーションサービス提供機関: NII, JST
 - 大学図書館:
 - 分野の研究者:
 - 自分のデータ活用に関わる研究者
 - 機関におけるデータ活用に関わる研究者
 - 国際連携におけるデータ活用に関わる研究者

研究データ利活用協議会（仮）

- 実験DOIプロジェクトのような場は継続的に必要！
- Japan Link Centerのアウトリーチ活動して位置づける
 - JaLC共同運営委員会で提案、大筋承認
 - ただし、実施にあたっては関係者の自主的運営にまかせる
 - （理由）
 - まったくの新規の組織作りは、作る方も参加する方も負担
 - JaLCはデータに対して中立

研究データ利活用協議会(仮)

- 仕組み(案)
 - 運営機関としてJST, NDL, NIMS, NII +アルファ
 - この運営機関が分担してミーティングなどを企画、運営
 - 個人メンバーは任意
 - 会としての事務局はJaLC事務局(JST)
 - 年3-4回の研究会、年1回程度の報告会、MLによる情報交換
 - スコープ: 研究データ利活用、研究データにおけるID登録・活用